

2004年度中間連結決算説明会資料

2004年10月22日

電子デバイスシステムの業績拡大により増収増益
- 2004年度、史上最高の業績を見込む -

 **株式会社日立ハイテクノロジーズ**

【お問合せ先】

人事総務本部 総務部 IR専門部長 芥川 達哉

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com

< 発表目次 >

<u>. 2004年度中間期 決算概要</u>	
2004年度中間期決算ハイライト	4
2004年度中間期経営成績	5
セグメント別営業概況	6
セグメント別主要製品群の動向	7
仕向地別売上高	11
損益計算書	12
貸借対照表	13
キャッシュ・フロー計算書	14
<u>. 2004年度 業績予想</u>	
2004年度業績予想	16
セグメント別業績予想	17
<u>. 経営戦略</u>	
経営戦略	23
事業戦略	24

. 2004年度中間期 決算概要

執行役常務(経理本部長) 三澤 寛

2004年度中間期決算ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益

- ・全項目において、半期ベースでの過去最高値を更新
- ・配当金を中間期・期末予想とも7円50銭から10円に増配

日立電子エンジニアリングのグループ会社化

- ・2004年4月からの連結子会社化により、当社業績に大きく貢献
(統合効果 : 売上高 282億円 / 期、営業利益 30億円 / 期)

半導体・液晶市況の改善で、電子デバイスシステムが増収増益

- ・測長SEM、プロセス製造装置、液晶関連装置等を中心に業績が拡大

減損会計の前倒し適用

- ・財務体質の健全性向上を図る

2004年度中間期経営成績

自社製品の好調により大幅増益を達成

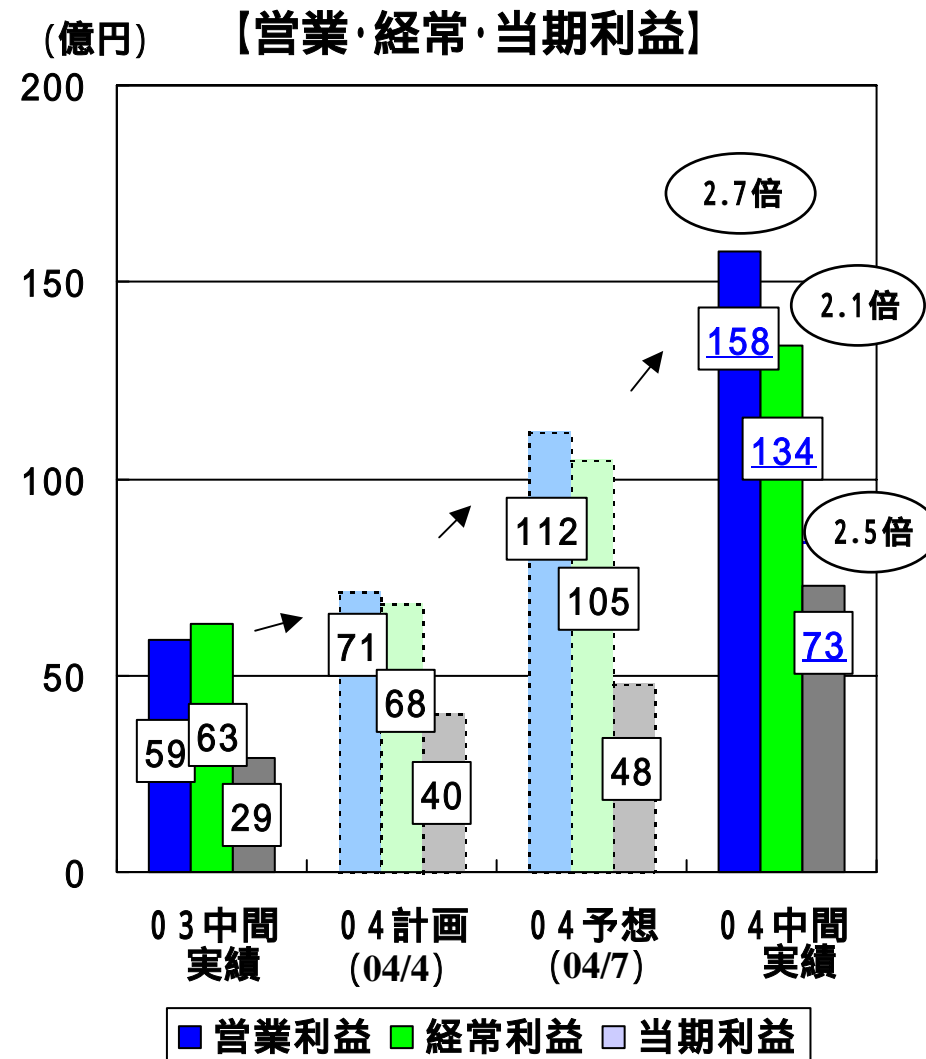
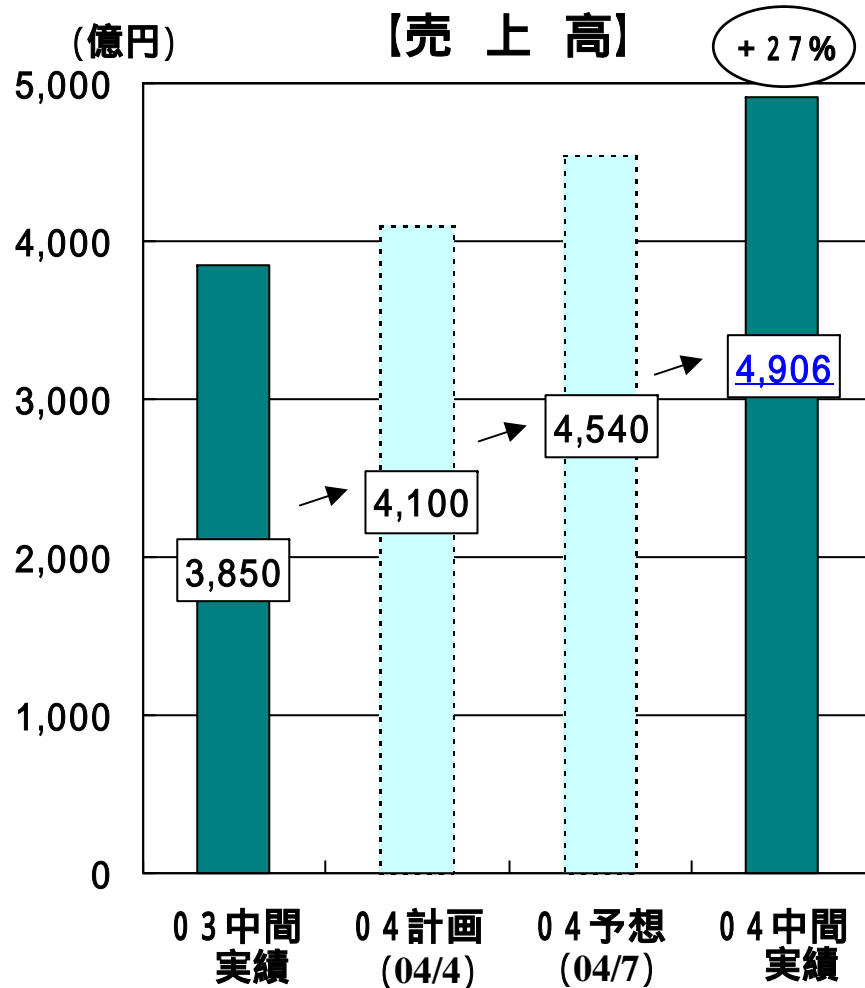
<過去最高(半期ベース)>

【売上高】 03下期 4,461億円(10%増加)

【営業利益】 00下期 80億円(96%増加)

【経常利益】 00下期 93億円(44%増加)

【当期利益】 00下期 54億円(35%増加)



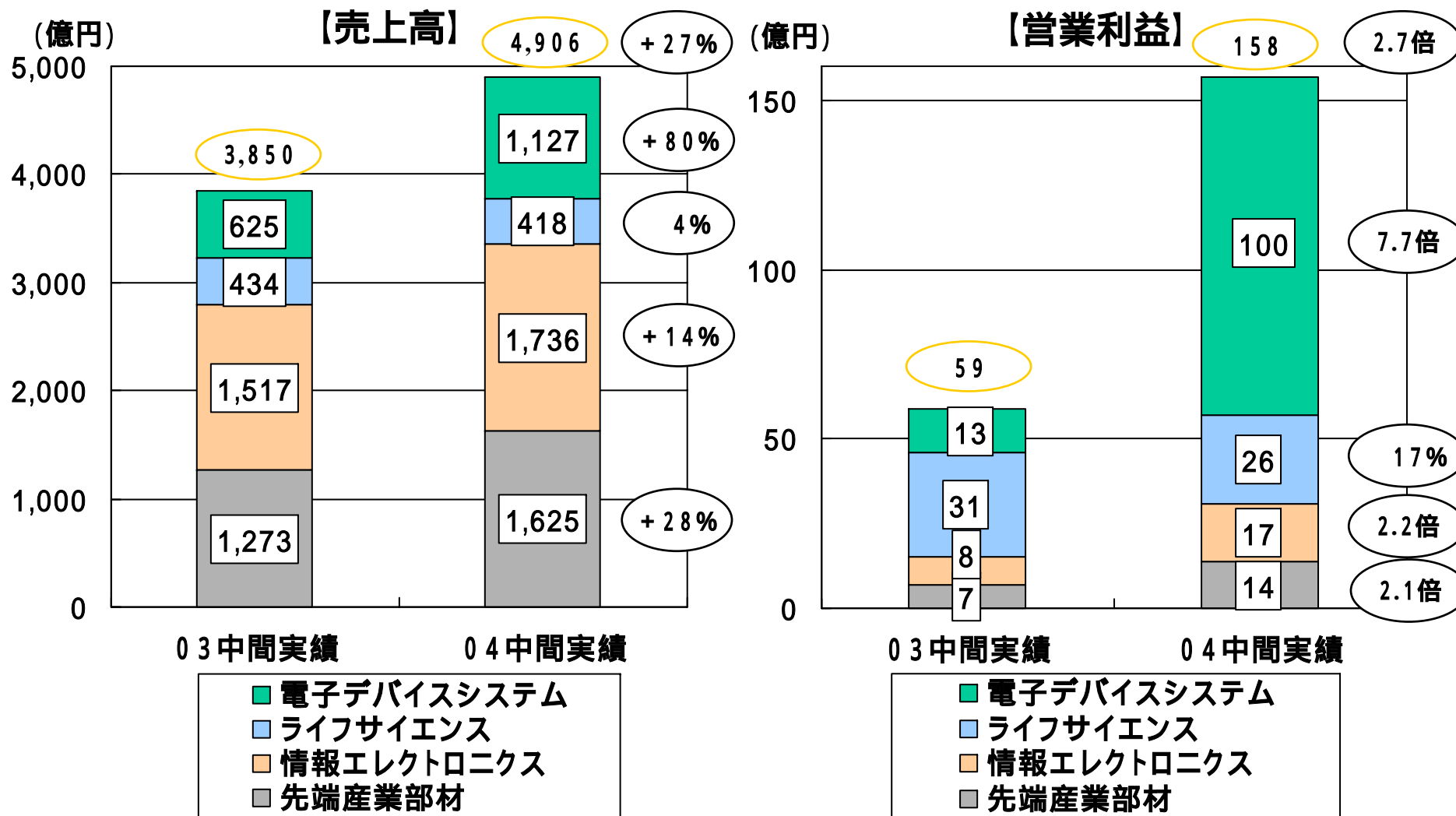
(注) *04 計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*04 予想は、2004年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。

*%は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別営業概況

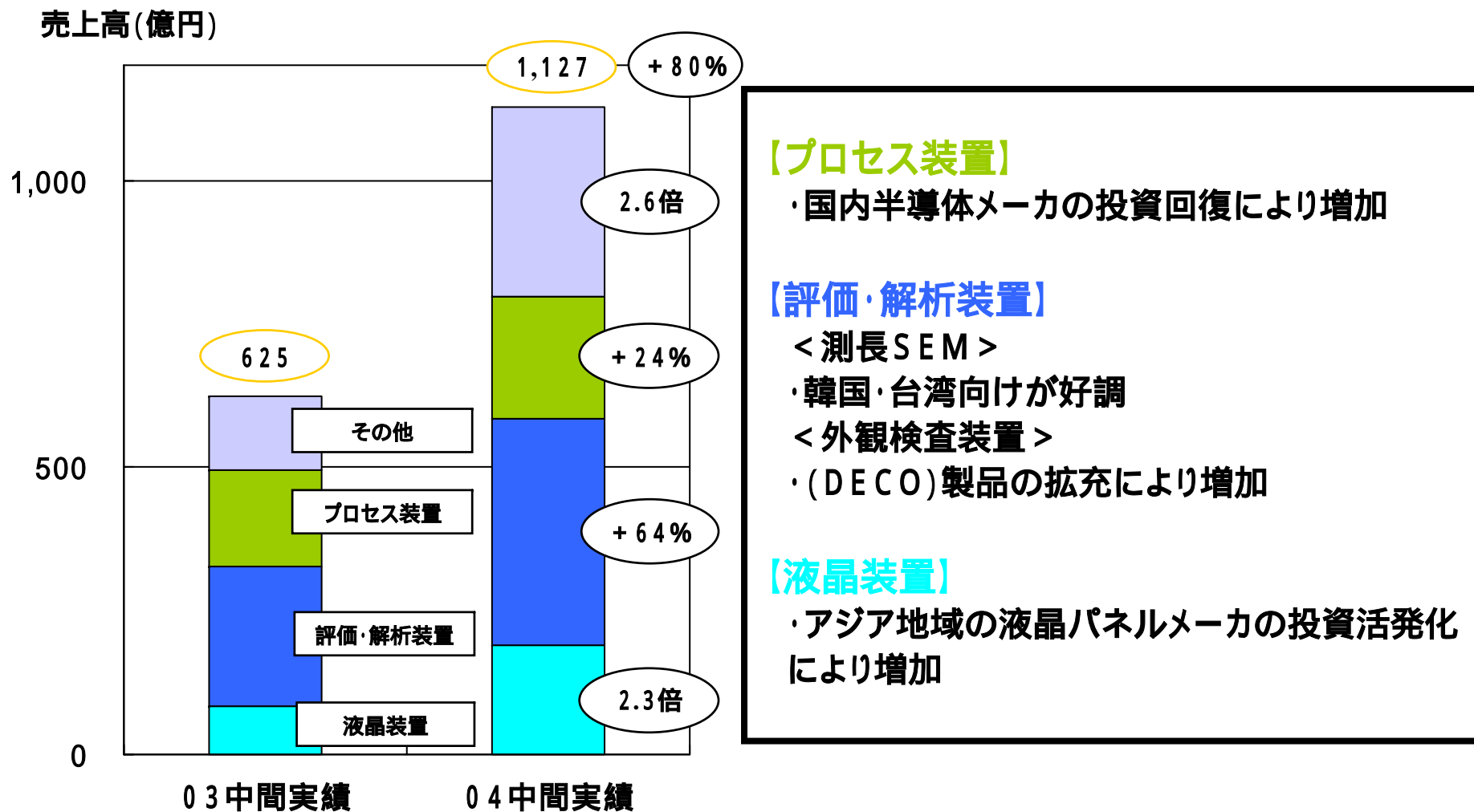
電子デバイスシステム、先端産業部材の業績が大幅に伸長



(注) %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向(電子デバイスシステム)

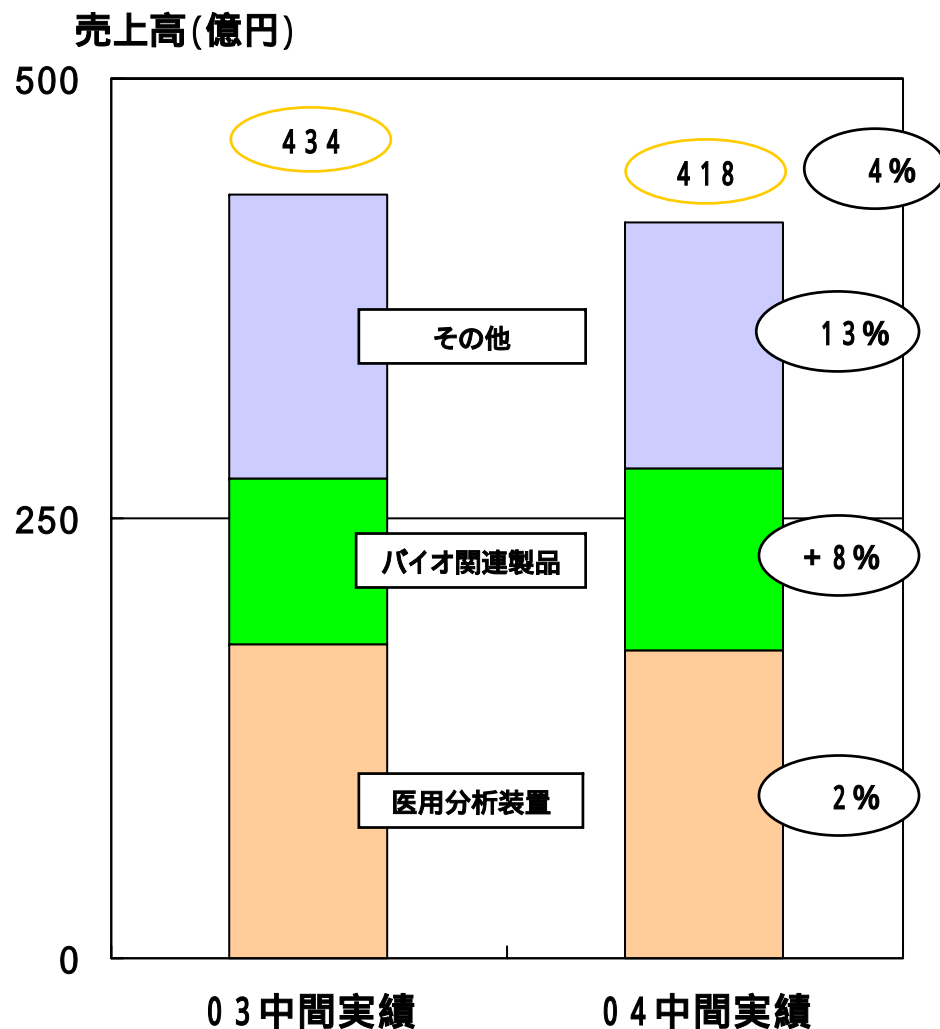
自社製品(半装)(液晶)の拡大で業績大幅アップ



(注) *%は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向(ライフサイエンス)

バイオ・医用分析装置ともに低迷



【バイオ関連製品】

< DNAシーケンサ >

・需要の一段落により微減

< 汎用分析機器 >

・液体クロマトグラフは微増

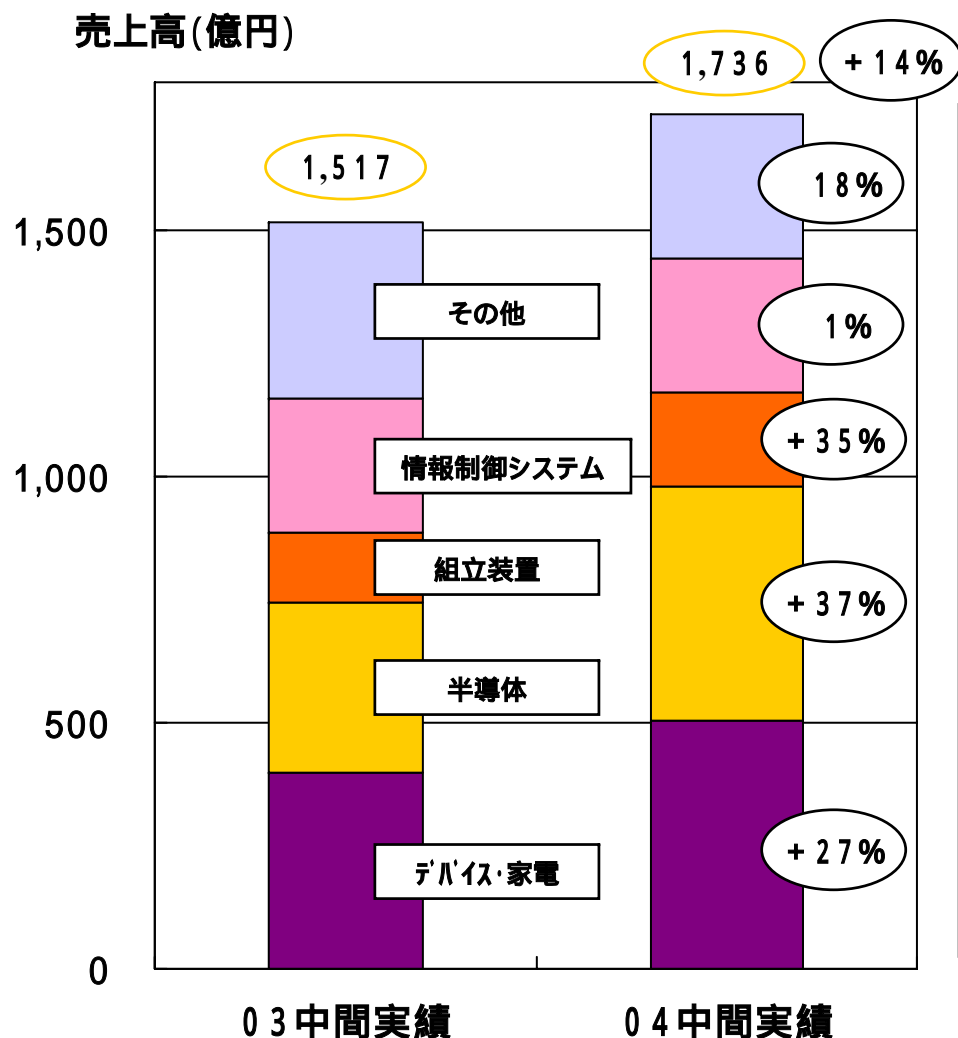
【医用分析装置】

・医療費抑制により横ばい推移

(注) * %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向(情報エレクトロニクス)

半導体、チップマウンタ、有機EL製造装置が好調



【組立装置】

<チップマウンタ>

・中国を中心としたアジアでの活発な設備投資により増加

<有機EL製造装置>

・韓国・台湾向けが堅調

【半導体】

・アジア向け携帯電話用半導体が好調

【メディアデバイス・情報家電】

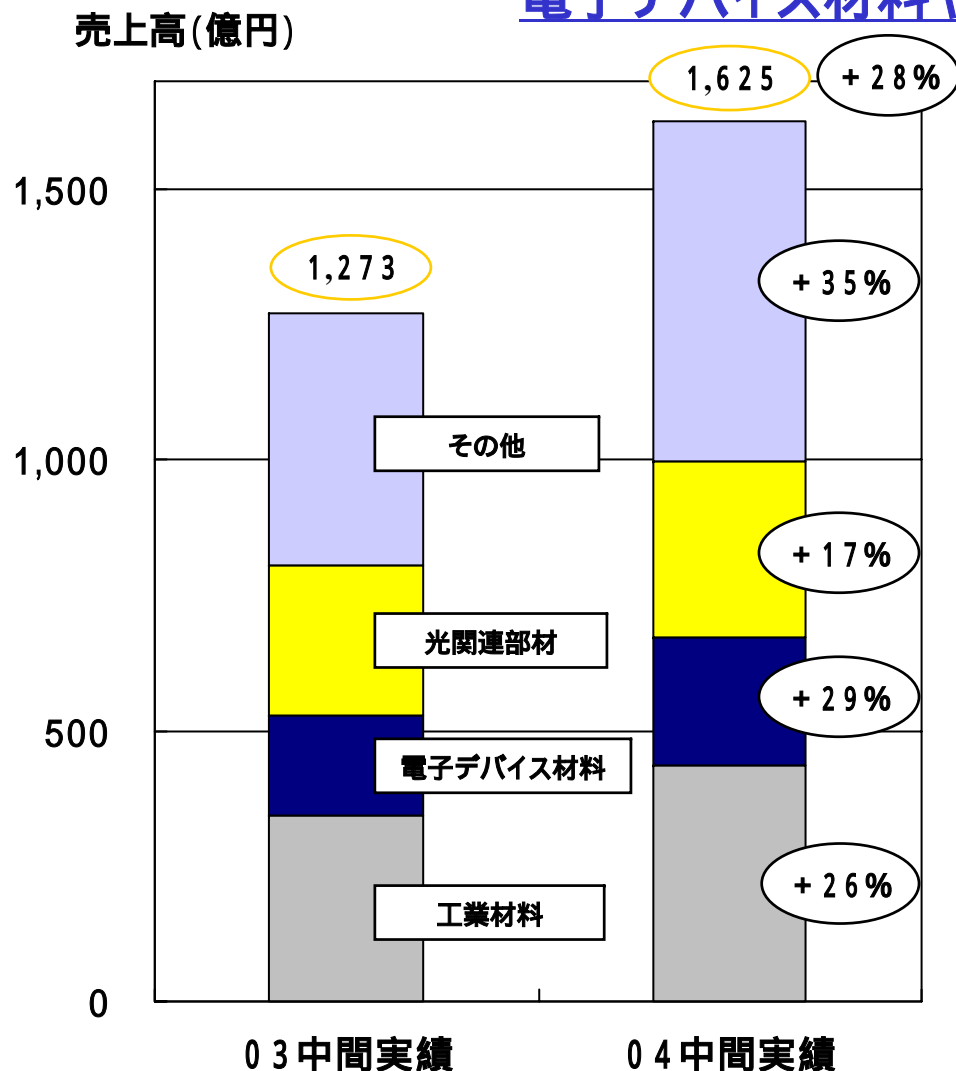
<メディアデバイス>

・TFT、二次電池等が増加

(注) * %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向(先端産業部材)

電子デバイス材料や工業材料が増加



【光関連部材】

・情報映像市場の拡大により、液晶プロジェクト用光学部品が堅調

【電子デバイス材料】

・デジタル家電や携帯電話の好調により、シリコンウェーハと液晶関連材料が増加

【工業材料】

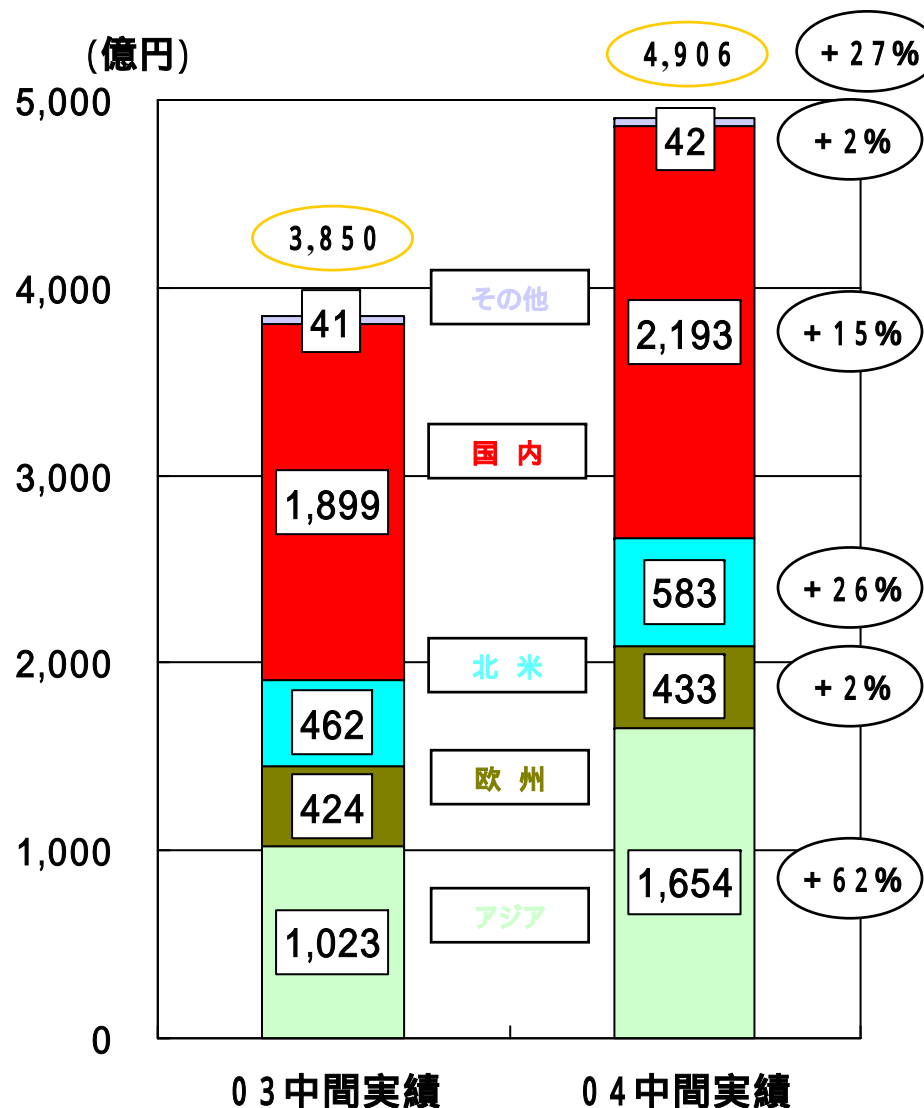
< 鉄鋼・非鉄・樹脂 >

・旺盛な素材需要と原料価格の高騰で増加

(注) *%は前年同期比増減率を表しています。

仕向地別売上高

電子デバイスシステムのアジア向け取引が増加



【国内】

・半導体製造装置や工業材料が増加

【北米】

・光関連部材が増加

【欧州】

・携帯電話用半導体等が増加

【アジア】

・有機EL製造装置や液晶関連材料が増加

(注) * %は前年同期比増減率を表しています。

損益計算書

営業利益 158億円(前年同期比2.7倍)、当期利益 73億円(同2.5倍)

(億円)

科 目	04年度 中間期	03年度 中間期	前 年 比 増減率(%)	前 年 比 増 減 額	主 な 増 減 要 因
売 上 高	4,906	3,850	+27.4	+1,056	
売 上 原 価	4,263	3,352	+27.2	+911	
売 上 総 利 益	642	497	+29.2	+145	
販 管 費 等	484	438	+10.5	+46	(DECO)統合による経費増加 40億円
営 業 利 益	158	59	2.7倍	+99	
営 業 外 収 益	16	9	+81.0	+7	
営 業 外 費 用	40	5	7.7倍	+35	雑損失(棚卸資産評価損 25億円)
経 常 利 益	134	63	2.1倍	+71	厚生年金代行部分返上益 40億円
特 別 損 益	8	0	-	8	減損損失 56億円
税 前 純 利 益	125	63	2.0倍	+63	
法 人 税 等	52	33	+57.1%	+19	
当 期 純 利 益	73	29	2.5倍	+44	

貸借対照表

自己資本 1,665億円、前年度比 60億円増加(自己資本比率 37%) (億円)

資 産	04 / 9	04 / 3	増 減 要 因	負債・資本	04 / 9	04 / 3	増 減 要 因
流動資産	3,540	3,582	41	流動負債	2,492	2,625	133
現金預金	389	417	28	買掛金等	1,780	1,883	103
売掛金等	2,341	2,346		短期借入	213	270	銀行借入 94
有価証券	12	41	償還 30	未払費用	269	250	
棚卸資産	596	559	商品 + 30	その他	230	222	
繰延税金	171	141		固定負債	310	362	53
前渡金	16	18		退職給付	288	327	代行返上 40
その他	42	86	預け金 30	その他	22	35	長期借入 10
貸倒引当	27	26		負債合計	2,802	2,988	186
固定資産	964	1,046	82	少数株主持分	38	36	+ 2
有形固定	563	620	減損 56	資本金	79	79	
無形固定	109	114		利益剰余	1,205	1,144	当期利益 + 73
投資他	293	312		その他	380	381	
				資本合計	1,665	1,605	+ 60
資 産 合 計	4,505	4,629	124	負債・資本 合 計	4,505	4,629	124

キャッシュ・フロー計算書

借入金の圧縮

科 目	2004年度中間	主なキャッシュ・フローの増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	+ 3億円	税引前利益 125億円、減価償却費 44億円、 減損損失 56億円、仕入債務 115億円、 たな卸資産 58億円、法人税等 51億円
投資活動による キャッシュ・フロー	+ 8億円	運用債券の償還 30億円 投資有価証券の売却 6億円 有形・無形固定資産の取得 32億円
財務活動による キャッシュ・フロー	78億円	短期及び長期借入金の返済 67億円 配当金の支払 10億円
現金等の増減	<u>58億円</u>	現金及び現金同等物に係る換算差額 8億円
現金等の期末残高	<u>388億円</u>	

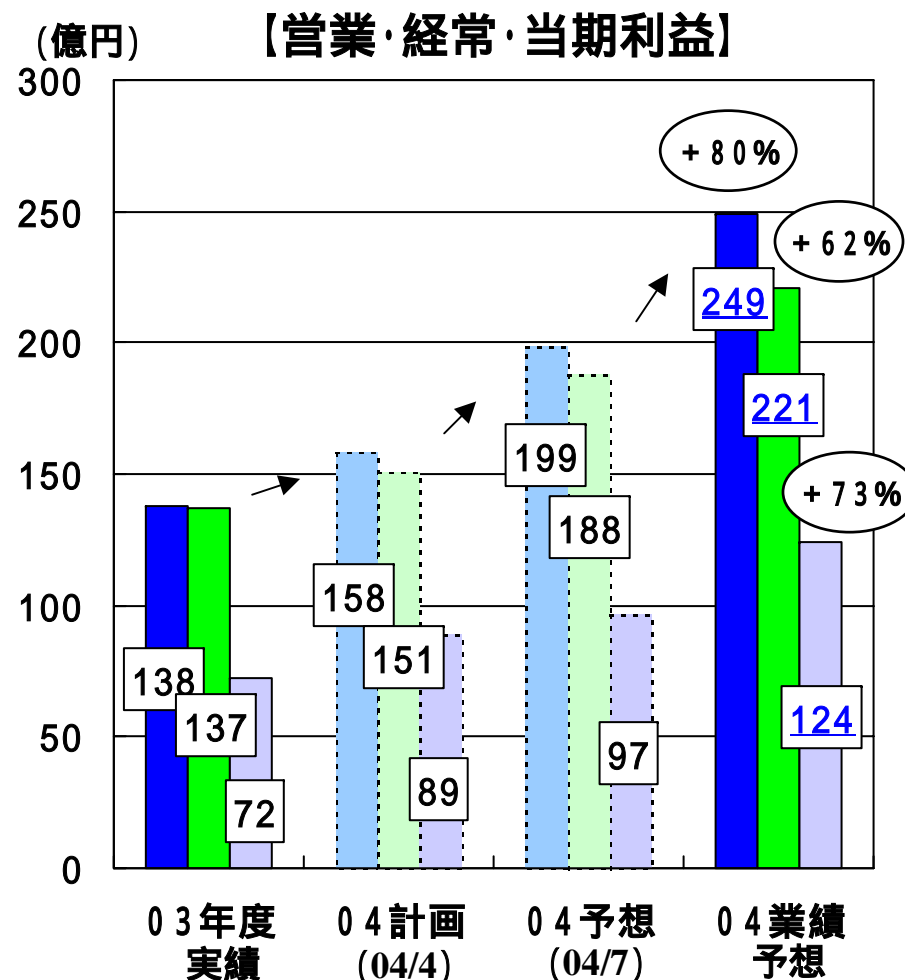
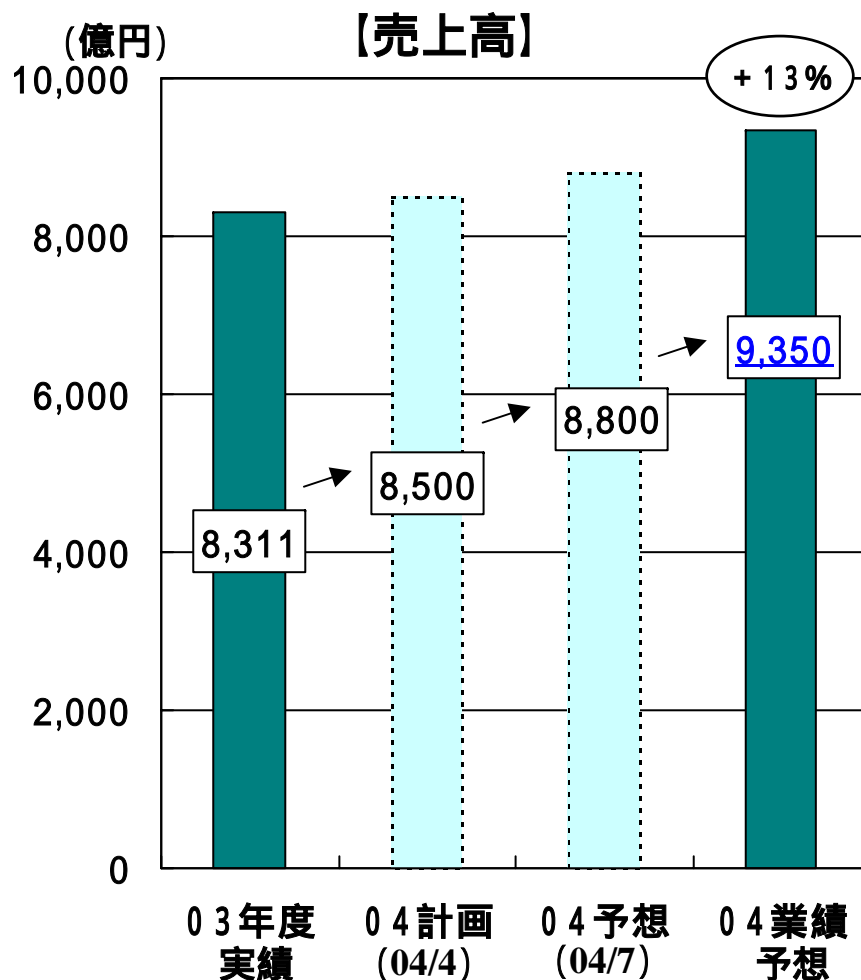
. 2004年度 業績予想

執行役常務(経理本部長) 三澤 寛

2004年度業績予想

全項目において、史上最高値を見込む

<過去最高(年度ベース)>
 【売上高】 1996年 8,951億円(4%増加)
 【営業利益】 2000年 147億円(70%増加)
 【経常利益】 2000年 164億円(35%増加)
 【当期利益】 2000年 77億円(61%増加)



(注) * 04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

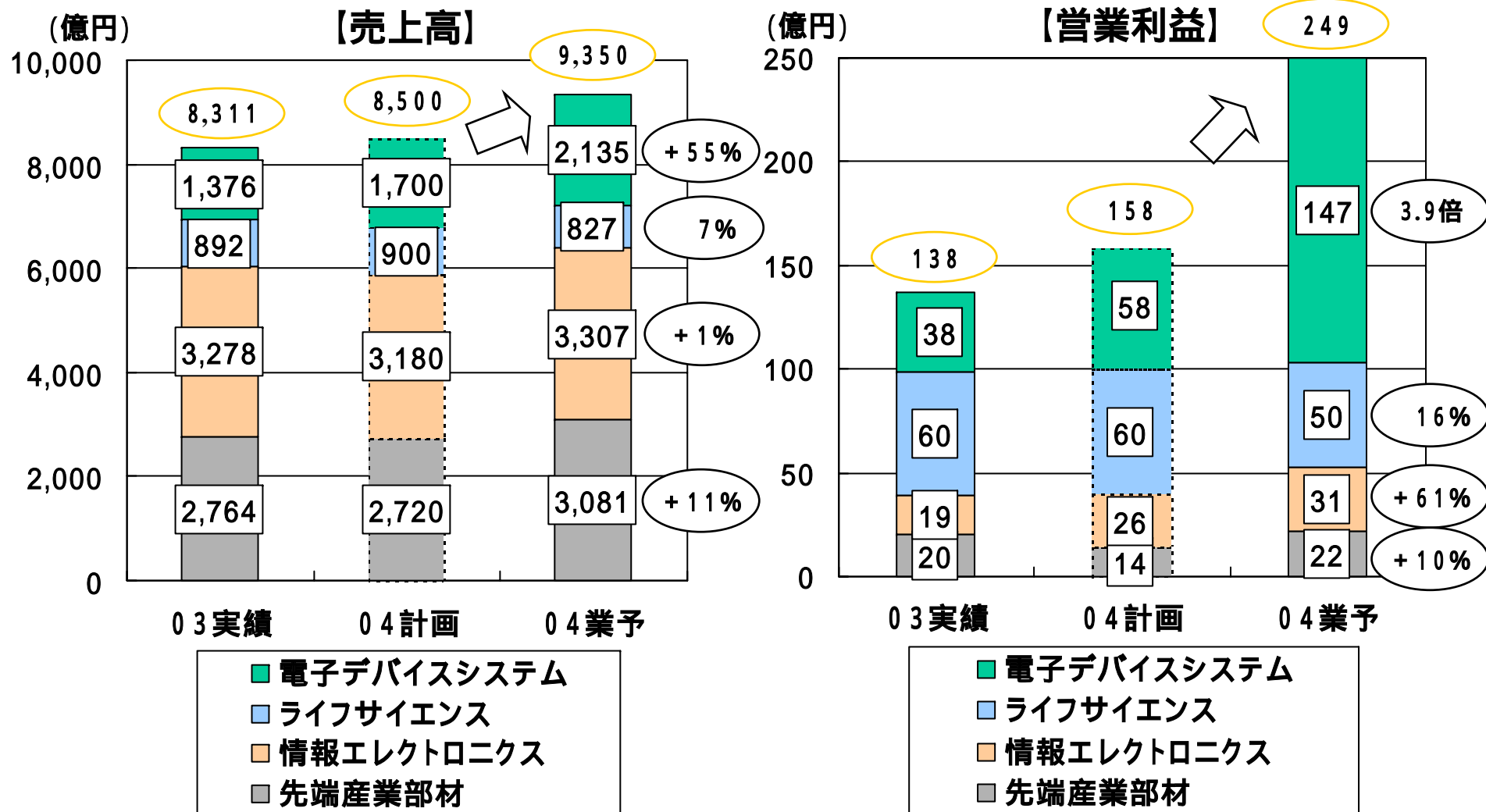
* 04予想は、2004年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。

* %は前年度比増減率を表しています。

■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期利益

セグメント別業績予想

電子デバイスシステムの業績が拡大



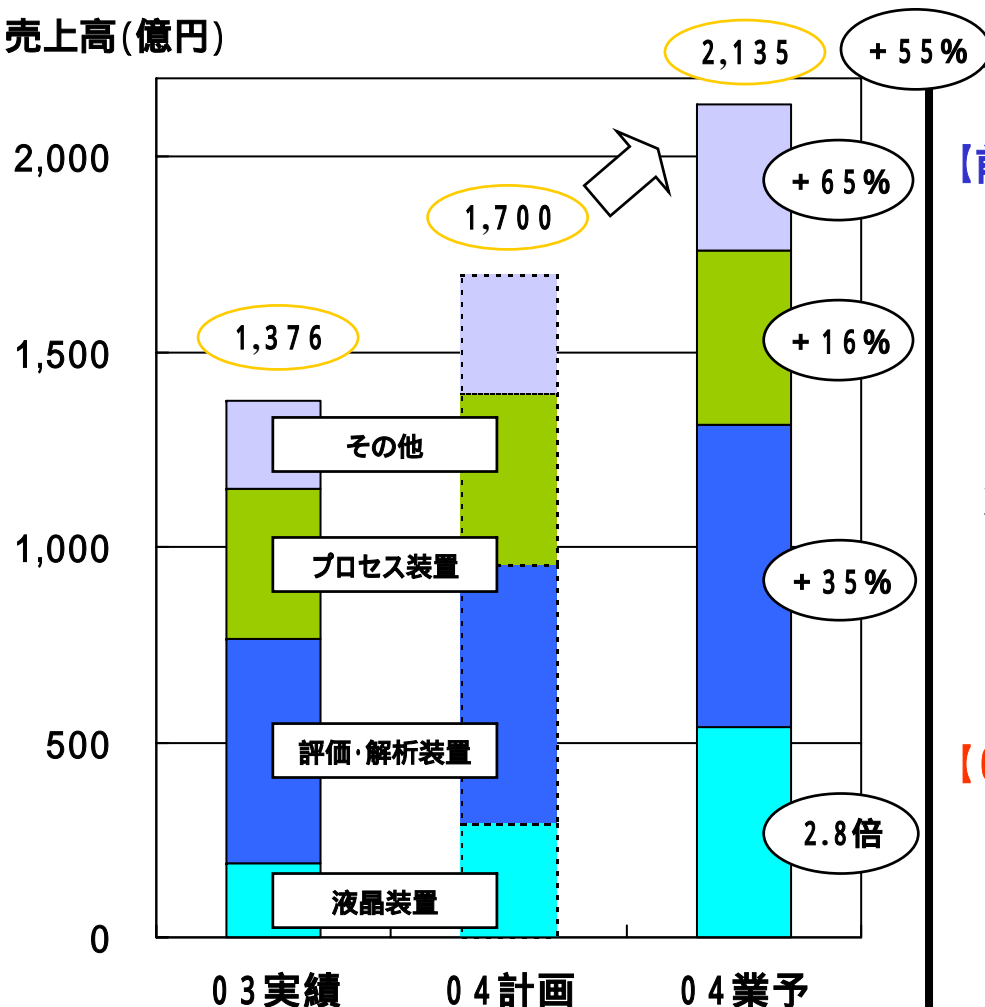
(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(電子デバイスシステム)

好調な市況と(DEC O)統合により業績が大幅向上

売上高(億円)



【前年度比】 759億円増加

<プロセス装置>

・国内向けエッチャが増加

<評価・解析>

・アジア向け測長SEM及びウェーハ検査装置が増加

<液晶装置>

・韓国・台湾向け製品が増加

【04計画比】 435億円増加

・エッチャが増加

・測長SEMが伸長

・液晶関連装置が増加

(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(ライフサイエンス)

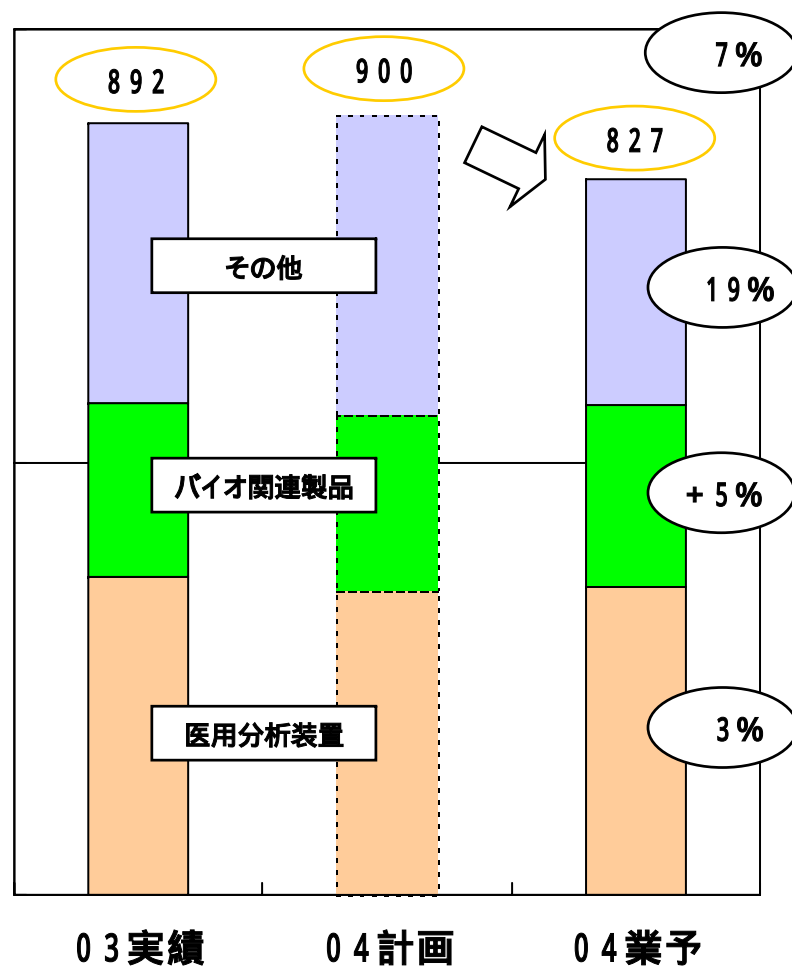
医用分析装置の伸び悩みから微減

売上高(億円)

1,000

500

0



【前年度比】 65億円減少

<バイオ関連製品>

・DNAシーケンサの需要一巡により横ばい

<医用分析装置>

・生化学自動分析装置が横ばい

【04計画比】 73億円減少

<その他>

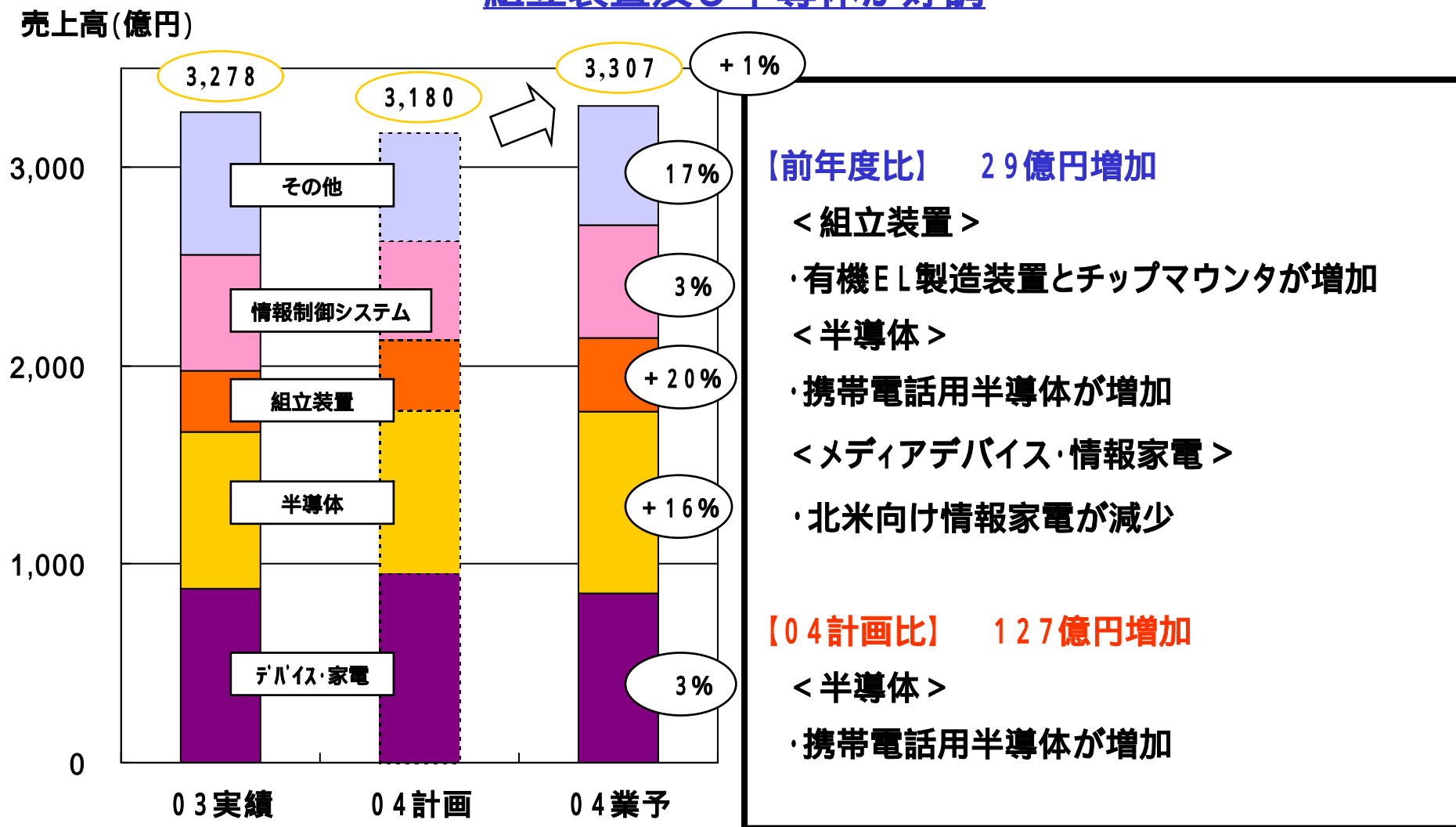
・各種分析装置他が減少

(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(情報エレクトロニクス)

組立装置及び半導体が好調

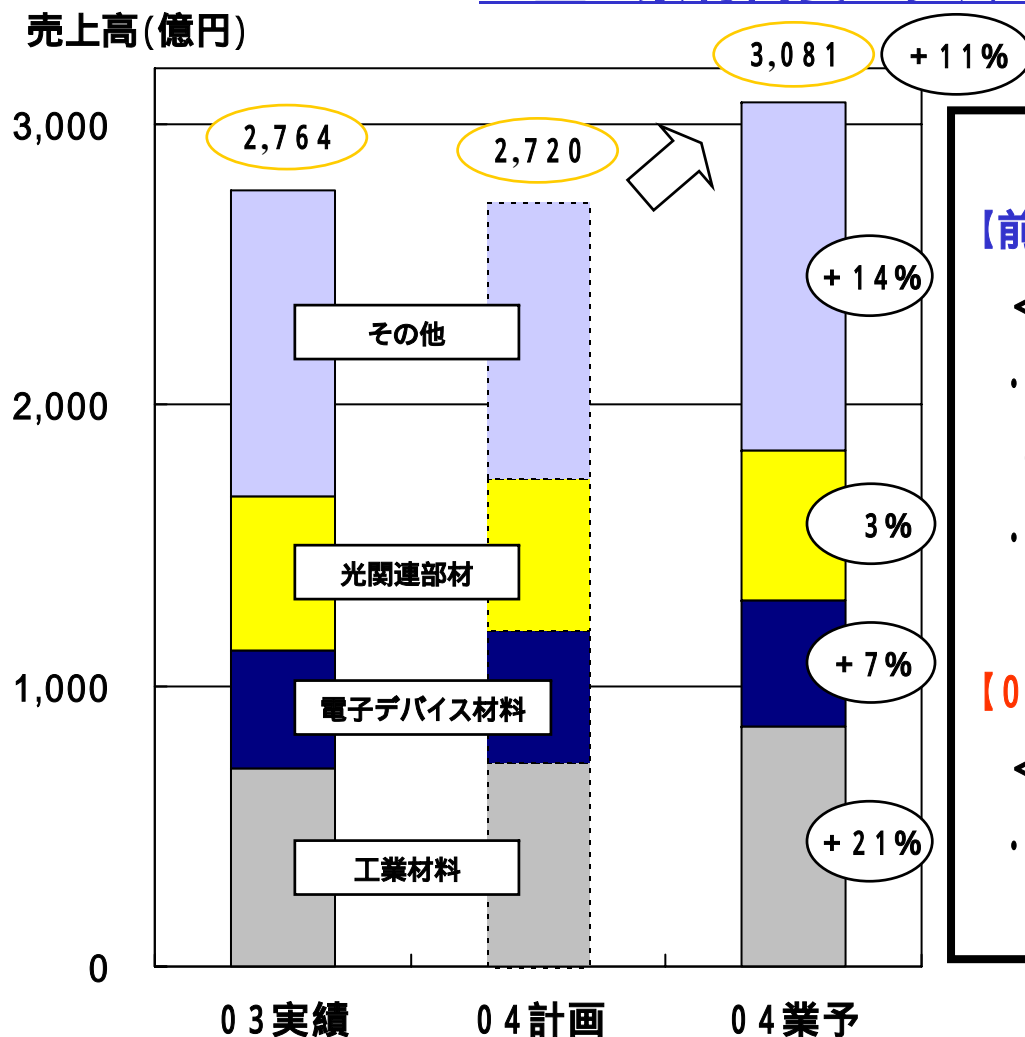


(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(先端産業部材)

旺盛な素材需要を受け、工業材料が好調



【前年度比】 317億円増加

<工業材料>

・旺盛な素材需要による増加

<電子デバイス材料>

・液晶関連材料が増加

【04計画比】 361億円増加

<工業材料>

・旺盛な素材需要による増加

(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

. 経営戦略

執行役社長 林 將章

経営戦略

－市場の伸びを上回る高成長・高収益企業の実現にむけて－

自社製品の高収益化

- ・「選択と集中」による収益力の向上
- ・日立の研究所や大学との連携による開発力の強化

商事部門のビジネスモデル転換

- ・付加価値付与型事業への転換

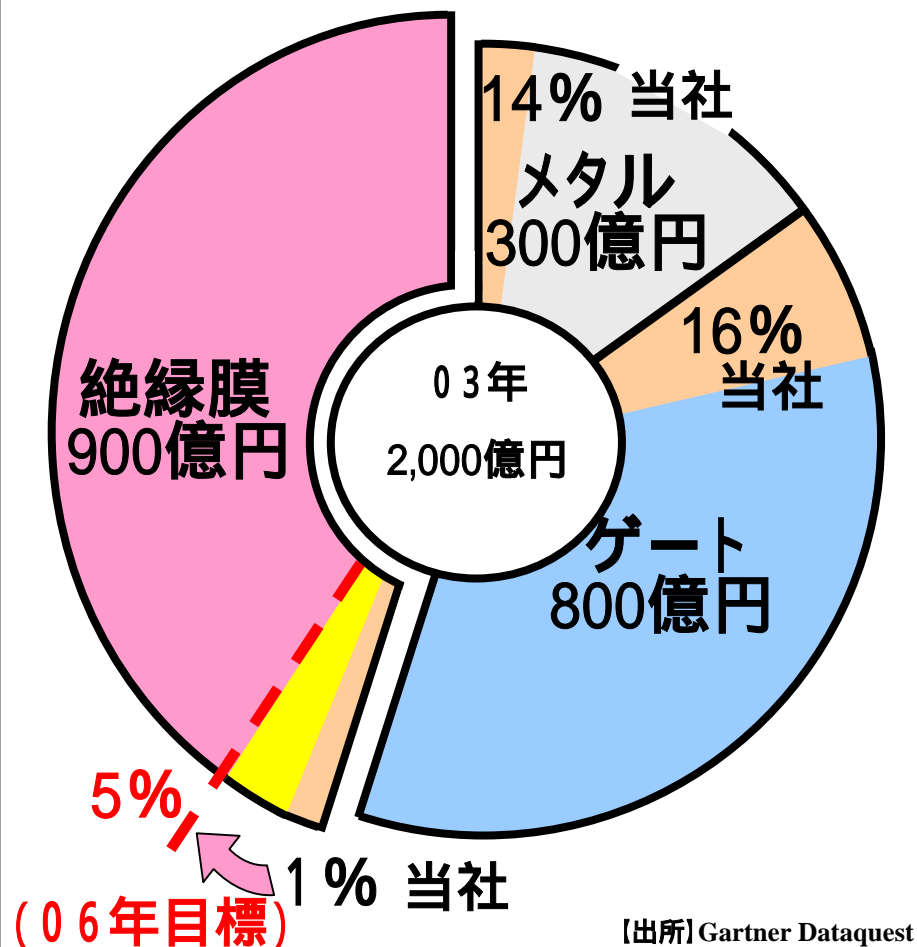
グローバル(特に中国)事業の拡大

- ・自社製品と商社機能を併せ持つメリットの有効活用

事業戦略(自社製品)

【エッチング装置】開発の重点化と絶縁膜機のシェアアップ

市場



戦略

市場環境に打ち勝つ事業体質の実現

開発の重点化

新製品の早期立上げと現有製品の高付加価値化

成長する絶縁膜市場でのシェア拡大

2003年度 1% 2006年度 5%

事業戦略(自社製品)

【半導体評価・検査装置】測長SEMの強化と次世代検査装置の育成

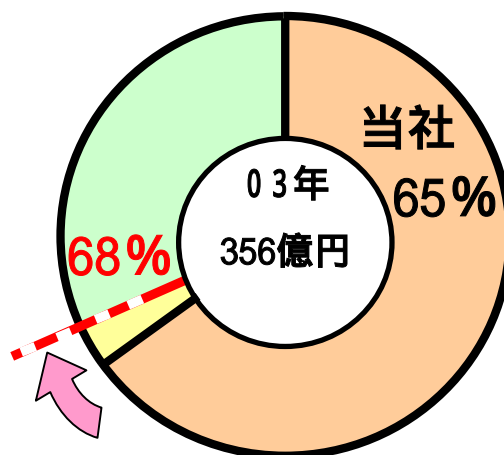
市場

測長SEM

【出所】Gartner Dataquest

- ・高収益製品
- ・他社との競争激化

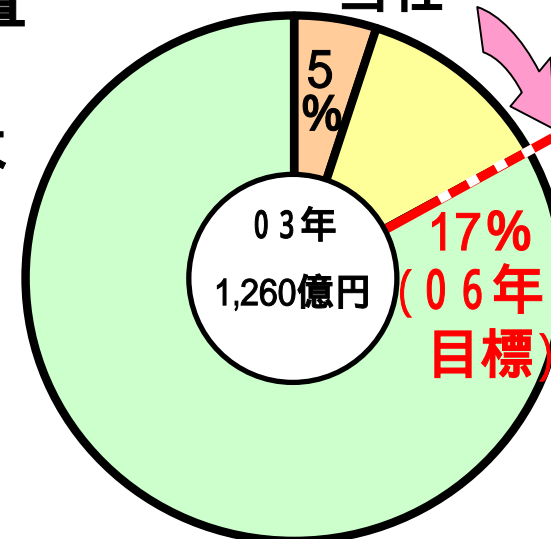
(06年目標)



検査装置

- ・市場規模大
- ・シェア小

当社



戦略

測長SEM

一層の競争力強化によるシェアアップ

検査装置

開発力の強化とラインアップの拡充によるシェア拡大

事業戦略(自社製品)

【半導体評価・検査装置】ラインアップの拡充によるトータルソリューションの提供

半導体向けアプリケーション技術開発

インライン評価 検査装置



測長SEM

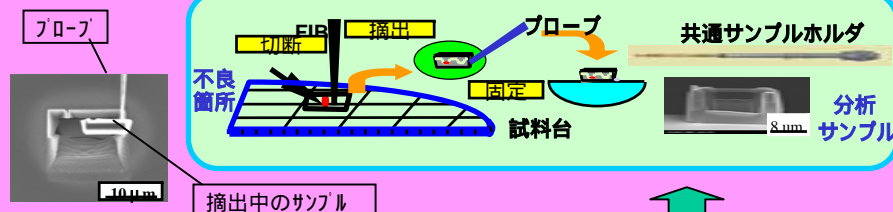


外観検査装置



異物検査装置

定評のあるμサンプリング技術で、インライン
検査技術と解析技術をシームレスに連結



オフライン検査 解析装置



超薄膜評価装置



FIB



SEM

LSI健康管理の総合病院化

【日立ハイテク】評価検査 解析装置のラインナップ

		日立ハイテク	A社	B社
計測	測長SEM	■	■	■
	合せ精度測定	■	■	□
検査	異物検査装置	■	■	■
	光学式外観検査	■	■	□
	SEM式外観検査	■	■	■
	面板検査装置	■	■	■
レビュー装置	欠陥レビューSEM	■	■	■
	原子間力顕微鏡	■	■	□
管理システム	歩留管理	■	■	□
解析装置	評価用SEM	■	■	■
	断面観察SEM	■	□	□
	超薄膜評価装置	■	□	□
	FIB	■	□	□
	TEM	■	□	□

診断

精密検査

治療指針

事業戦略(自社製品)

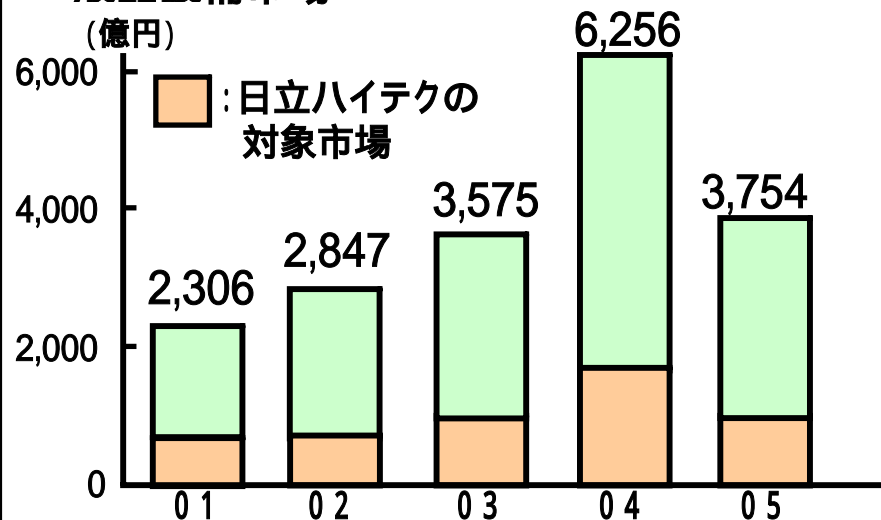
【液晶関連装置】次世代対応製品の拡販によるDipへの対応

市場

液晶設備市場

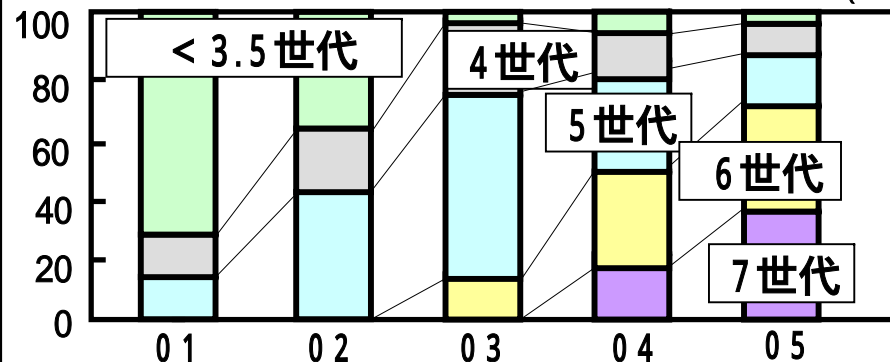
(億円)

【出所】SEAJ



世代別投資比率

(%)



戦略

当社グループの販売ネットワークを
活用したグローバル展開

第6・7世代対応製品の拡販

コスト低減による05年Dipに備えた体制構築

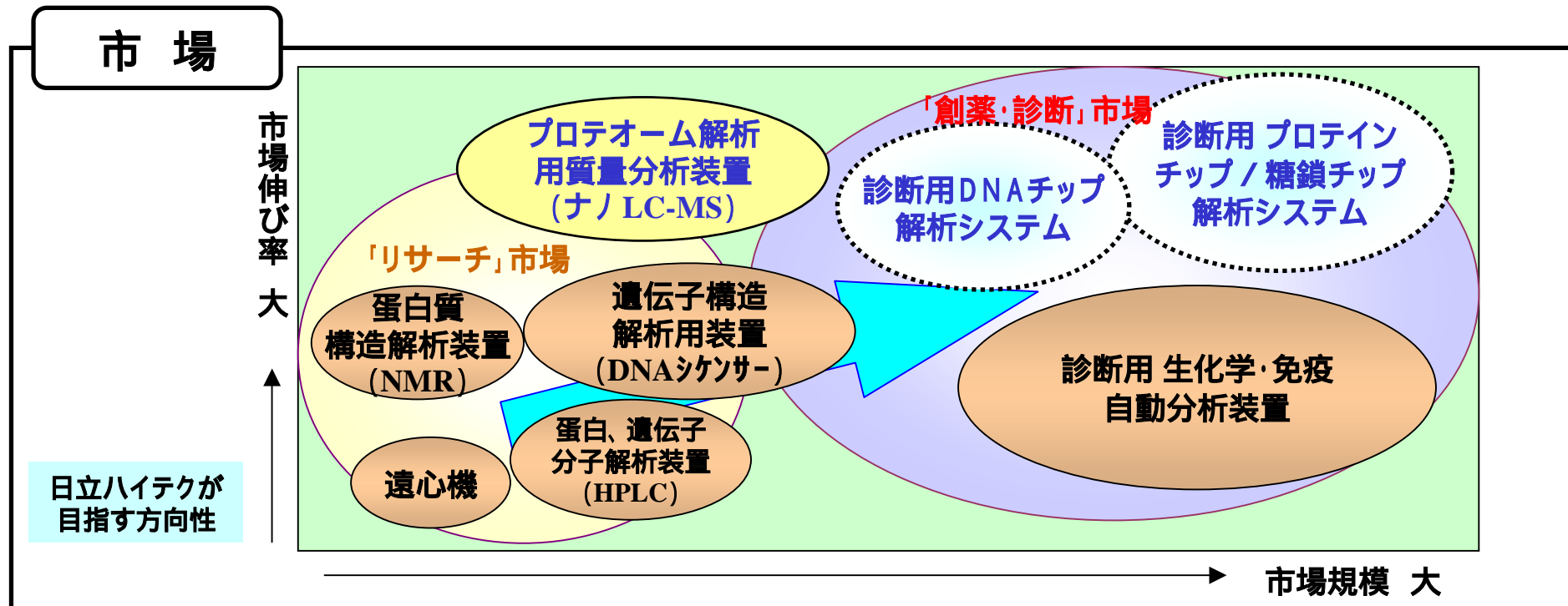
重点顧客とタイアップした新製品の継続投入

中国市場への製品展開と市場開拓

先行技術開発の推進

事業戦略(自社製品)

【ライフサイエンス】「創薬・診断」市場に向けた新製品の開発



戦略

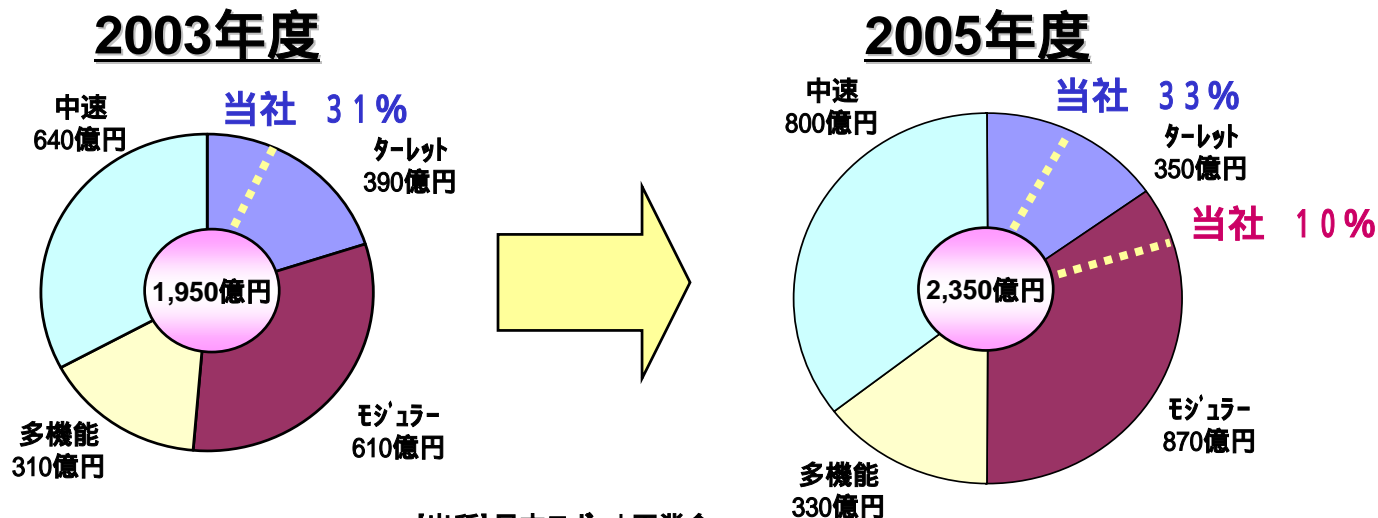
プロテオーム解析用質量分析装置の立ち上げ
試薬メーカーとのアライアンスによる試薬・装置のシステム販売
心臓磁気計測システムの販売開始

事業戦略(自社製品)

【チップマウンタ】ターレットとモジューラでチップマウンタ事業を拡大

市場

【チップマウンタ市場(タイプ別出荷金額)】



戦略

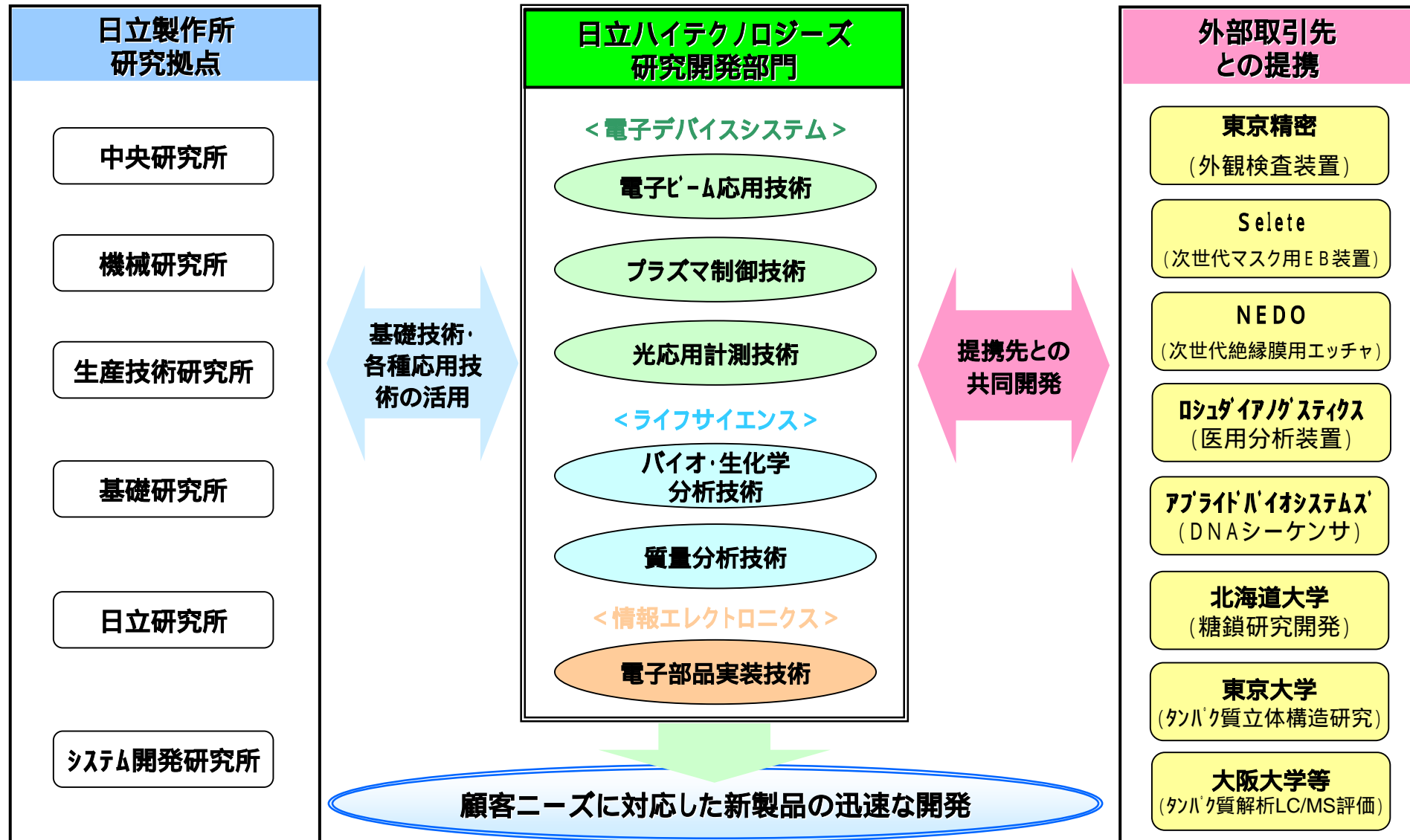
【2強製品体制の確立】

ターレットマウンタ「TCM-Xシリーズ」の拡販(特徴:高スループット、極小チップの高精度実装)

モジューラマウンタ「GXH-1」の市場投入(特徴:高スループット、高品質実装能力)

事業戦略(自社製品の研究開発体制)

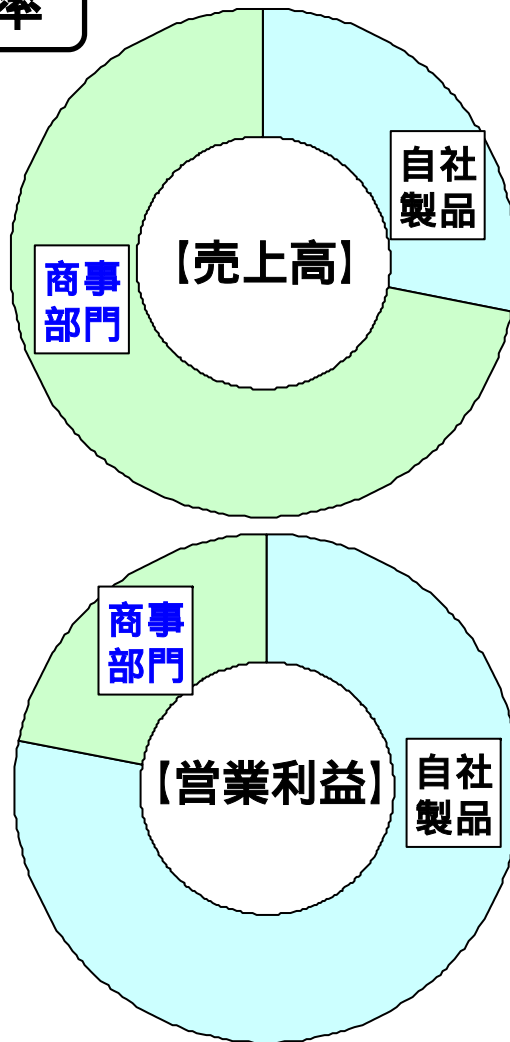
日立の研究所及び外部提携先との連携による迅速な新製品開発



事業戦略(商事部門)

「付加価値付与型事業」へのビジネスモデル転換による収益性の向上

構成比率



課題

< 課題 >

商権確保と収益性の向上
仲介型業務からの業務転換

< 戦略 >

ビジネスパートナー(顧客・仕入先)との
アライアンスによる「付加価値付与型事業」
へのシフト推進
(出資、融資、共同開発、設備貸与、製造、
保守サービス等)

事業戦略(商事部門)

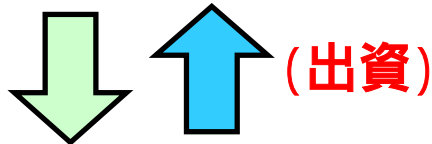
【具体例】「付加価値付与型事業」

有機EL製造装置事業

資本参加による生産能力の増強

製造装置メーカー
トッキ(株)

他装置
メーカー



日立ハイテク

有機ELパネルメーカー

トッキへの資本参加(3.3%)と試作設備貸与
トッキ製品を核にラインアップ増強

今後の事業の取り組み

1. 先端高機能材料の開発

カーボンナノチューブを使用したFED製造
バリューチェーンの開発

ナノプリント技術を使用した高機能材料の開発
燃料電池関連材料への取り組み

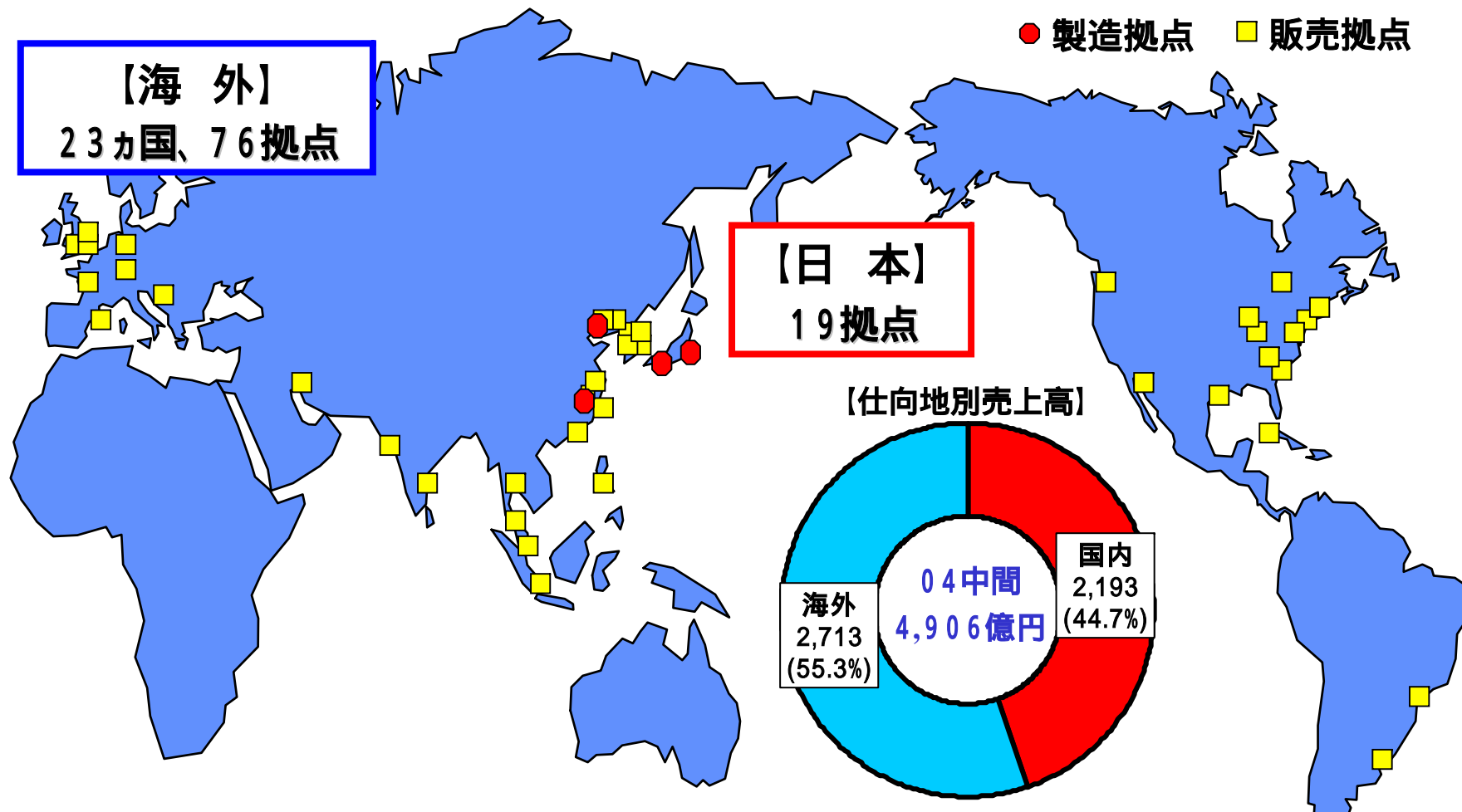
2. 自動車関連事業の開発

テレマティクス事業への参画

ディーゼル排ガス処理システムの開発

事業戦略(グローバル事業の拡大)

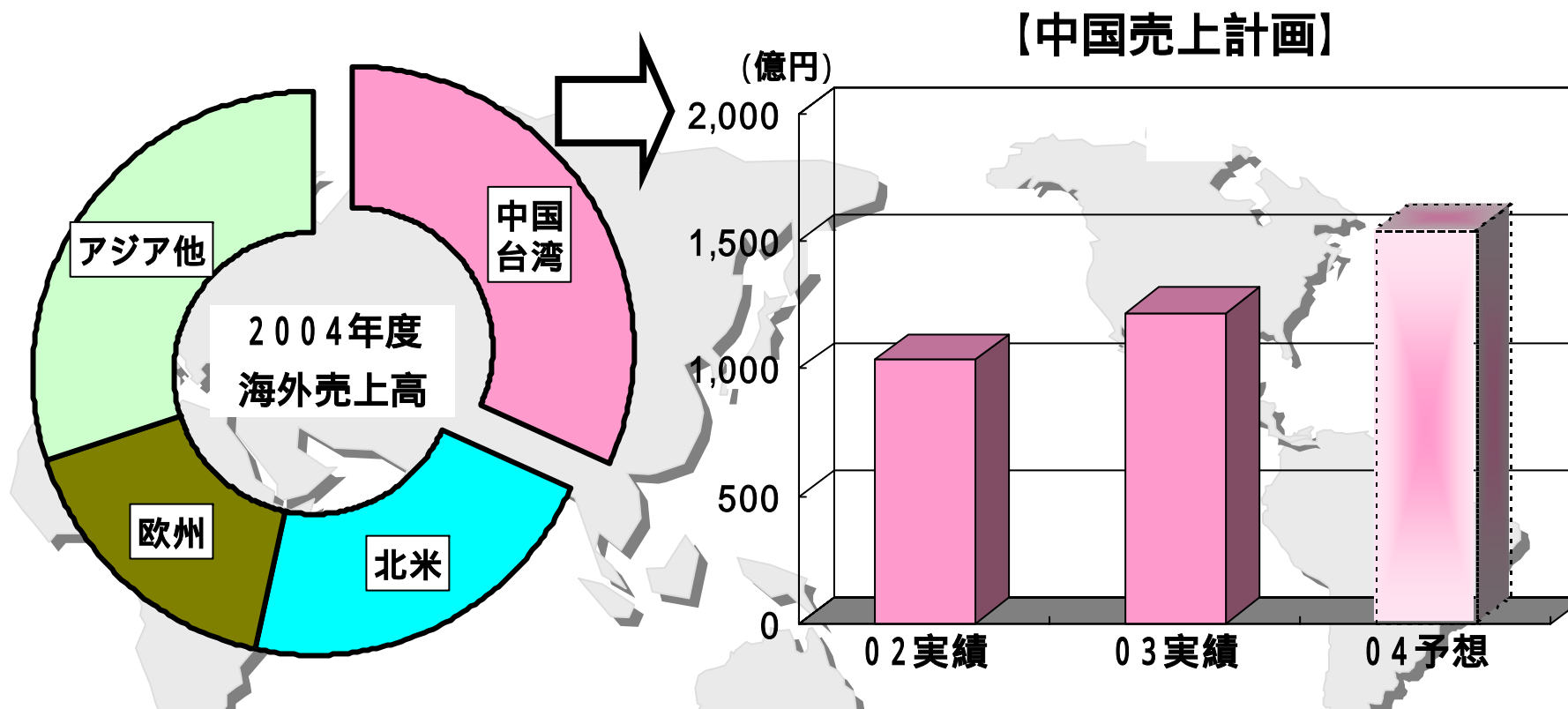
最先端情報を活用した開発の促進とグローバル事業展開



製造拠点とグローバル販売拠点の情報ネットワーク

事業戦略(中国事業の拡大)

成長市場の中国地域への積極的な事業展開



地域戦略と個別事業戦略を組合わせた機動的展開(販売・調達・生産)

CEPA / 新外資企業法に基づく国内流通業、貿易・サービス事業への進出

CEPA : Closer Economic Partnership Arrangement (04.4 施行) 新外資企業法: 外商投資商業領域管理弁法 (04.6 施行)

< 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、すべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、円単位で計算しています。

「経営戦略」での2005年度業績及びシェアは、今回の2004年度業績予想とは別の【参考計画値】です。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上